上信越高原国立公園
（苗場地域）

指　定　書

令和６年８月８日
環　境　省

目　　次

１　指定理由 1
２　地域の概要 2
（１）景観の特性 2
ア　地形、地質 2
イ　植生・野生生物 2
ウ　自然現象 3
エ　文化景観 3
（２）利用の現況 4
（３）社会経済的背景 4
ア　土地所有別 4
イ　人口及び産業 4
ウ　権利制限関係 5
３　公園区域 7

１　指定理由

①　景観（同一の風景型式中、我が国の風景を代表する傑出した自然の風景地）

上信越高原国立公園は、群馬県、長野県及び新潟県の３県の県境にまたがる国立公園であり、浅間山（あさまやま）、四阿山（あずまやさん）、白根山（しらねさん）及び志賀山（しがやま）等の火山群やそれらの山麓の火山性高原をはじめとして、谷川連峰等の構造山地に、巨大な溶岩台地である苗場山（なえばさん）の地域等を合わせ、我が国を代表する山岳及び高原景観地として、面積約 15 万 ha の範囲が昭和 24 年９月７日に国立公園に指定された。これに妙高、戸隠、野尻湖一帯の面積約４万 ha の地域が昭和 31 年７月 10 日に追加指定され、その後、平成 27 年３月 27 日に妙高、戸隠、野尻湖一帯が「妙高戸隠連山国立公園」として分離独立し現在の区域となっている。

本国立公園は、成層火山やカルデラ、火山性高原等の火山活動によりできた様々な地形と、氷食による断崖・岩壁や蛇紋岩（じゃもんがん）植生が見られる非火山性構造山地等を有し、我が国の風景を代表する傑出した自然の風景地である。

②　規模（区域面積が原則として約３万 ha 以上）

本国立公園の区域面積は 151,053ha※であり、その区域面積は 30,000ha を超える。

※これまで上信越高原国立公園の面積は 148,194ha としてきたが、今回 GIS 等により精査した結果、改めて正確な面積を指定するもの。公園区域の変更はない。

③　自然性（原生的な景観核心地域が原則として約 2,000ha 以上）

本国立公園の原生的な景観の核心地域は 25,373ha であり、その区域面積は 2,000ha を超える。

④　利用（多人数による利用が可能）

冬季オリンピック・パラリンピック長野大会の会場となるなど、上質な雪質を利用したスキー場が早くから開発されているほか、数多くの温泉が知られている。グリーンシーズンにおいては湿原や湖沼周辺の散策をはじめ、登山者で賑わい、林間学校等の環境教育の場としても利用されているなど、全国の国立公園の中でも利用に重きが置かれた公園管理がなされている。

以上、「国立公園及び国定公園の候補地の選定及び指定について（平成 25 年５月 17 日付け環自国発第 1305171 号　環境省自然環境局長通知）」の別添「国立公園及び国定公園の候補地の選定及び指定要領」のうち「１　国立公園及び国定公園の候補地の選定」に掲げる各要件を満たしている。

また、本国立公園のテーマを「山と高原が彩るレクリエーションワールド」とし、成層火山やカルデラ、火山性高原等の火山活動による様々な地形と、氷食による断崖・岩壁や蛇紋岩植生が見られる非火山性構造山地の景観要素からなる風致景観を保全し、これらの風致景観を活かして行われる多種多様な利用を適切に推進する国立公園を目指す。

2　地域の概要

（1）景観の特性

ア　地形、地質

本地域は、信濃川の支流である清津川が南北に中央部を流れ、その西側に標高 2,145mの苗場山が位置し、苗場山の北には霧ノ塔、南には赤倉山、佐武流山、白砂山、西に檜ノ塔、大岩山が連なる。本地域の東端には標高 1,977mの谷川岳を中心とし、北に七ツ小屋山、武能岳、茂倉岳、一ノ倉岳が、西に万太郎山、仙ノ倉山、平標山などから成る谷川連峰が連なり、それぞれが特徴ある地形を形成している。

苗場山の山頂部は幅２km、長さ４km に達する広大な台地をなし、そこに高層湿原が発達し、無数の池塘がみられる。この台地は硫黄川源流部の火口から流出した溶岩からなる溶岩台地であり、南西の縁の部分には大岩山がある。谷川連峰は、標高 2,000m前後であるが、急峻な岩壁と露岩地の発達する山容はまさしく高山的で、アルプス的な景観を呈している。

また、本地域は積雪量が多いことから、標高 2,000m前後にもかかわらず、一部地域の山地には積雪による地形が形成されている。例として、平標山や万太郎山の周氷河砂礫斜面、谷川連峰各所に存在する雪食凹地などが挙げられる。

苗場山周辺には苗場火山の基盤を構成する第三系の堆積岩類並びに閃緑岩類・ひん岩・斜長流紋岩類・変朽安山岩類等の火成岩類が分布し、これらを苗場火山起源の噴出岩類が覆っている。苗場山の北側の清津峡峡谷では、秀麗な複輝石安山岩の柱状節理が見られる。

谷川岳周辺は、深成岩類の石英閃緑岩から閃緑岩類が広く分布し、これらは古期岩類および新第三系を貫き、それらに接触変成作用を与えている。古期岩類には、時代未詳中生層、結晶片岩、蛇紋岩、花崗岩類、輝緑岩等の岩石が含まれる。新第三系は主に火山砕屑岩から成るもので、本地域南方の水上付近のものに連続すると考えられている。注目すべき地形・地質としては、谷川岳山頂部をつくる蛇紋岩のゼノリス状結晶片岩が挙げられる。

イ　植生・野生生物

本地域は、日本海側にあり、冬季の積雪量が４～５mにも及ぶ豪雪地帯であり、積雪のある期間も長いことから、このような多雪地気候に適応した植生が分布する。標高約 1,600m以下には林冠をブナ等が優占し、林床をチシマザサが被圧する、典型的な日本海側ブナ林が発達する。苗場山から佐武流山にかけての山域では、ブナ帯の上部には主としてササーダケカンバ群落が成立し、さらに高標高域の亜高山帯にはオオシラビソ群落が広く分布する。苗場山山頂には広大な高層湿原に池塘が点在し、コバイケイソウ、チングルマ、ワタスゲ、ミヤマホタルイ、ヒメシャクナゲ、トキソウ等の希少な湿原植物や高山植物が多数分布する。

一方、谷川連峰にはオオシラビソ群落等の亜高山帯針葉樹林がほとんど分布しないのが特徴であり、ササ自然草原の下部には、稜線南側にはミヤマナラ群落が、北側には自然低木群落が分布する。稜線付近には多雪の影響により偽高山帯が発達する。

注目すべき植物群落としては、谷川岳周辺の蛇紋岩植生が挙げられる。蛇紋岩植生では、オゼソウ、ホソバヒナウスユキソウ、ジョウシュウアズマギク、ジョウシュウオニアザミ、クモマニガナ、イブキボウフウ、ナエバキスミレ、ユキワリソウ、シブツアサツキなどが見られる。

苗場山のオオシラビソ、コメツガ、トウヒ、クロベなどの針葉樹林や山頂の湿原は、この付近の動物にとって絶好の生息環境となっている。変化に富んだこうした植生、また地形の複雑さなどにより、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、キツネ、テン、ニホンリス、ノウサギなど多くの哺乳類が生息している。

鳥類は、苗場山麓に分布するチシマザサを下層植生とするブナ林内はウグイス、クロジ、コルリが優占し、シジュウカラ、ヒガラ、キビタキ、メボソムシクイなどのブナ・ミズナラ林を特徴付ける鳥類が生息している。本地域内に複数個体の生息が確認されているイヌワシは、国内希少野生動植物種に指定されており、本地域の生態系の頂点に位置する。本地域に多く分布する多雪により形成された雪崩草地やスキー場等の草地はイヌワシにとって格好の狩り場となっており、イヌワシの生息は本地域の豊かな自然環境の指標であるといえる。

昆虫類も同様変化に富んでおり、多くの種が生息する。本地域の亜高山帯は日本海側に位置しながら、関東山地との共通項がみられる。苗場山山頂部の湿原ではカオジロトンボが、神楽ヶ峰（かぐらがみね）から苗場山、白砂山にかけての稜線周辺にはベニヒカゲなどの高山蝶が多くみられる。また、清津川上流域は、自然度が高く多種多様な昆虫類が生息している。

魚類では特に遺伝的固有性を保ったイワナの個体群が中津川支流を中心に生息する。

ウ　自然現象

本地域の南西境界付近に位置する切明（きりあけ）温泉は、魚野川と雑魚川の合流地点付近の河床から湧出する。

苗場山の山頂部をはじめ昌次新道（しょうじしんどう）、茂倉岳や一ノ倉岳周辺には雪田が広がる。また、本地域は標高が高く厳冬期には気温が日中でも氷点下となるため、主として落葉広葉樹の枝に霧氷が形成されやすい。樹氷については、厳冬期にオオシラビソに過冷却の水滴が当たることで形成されるが、本地域では苗場山付近で観察される。

エ　文化景観

新潟県指定史跡に指定されている三国街道脇本陣跡池田家（みくにかいどうわきほんじんあといけだや）は、江戸時代に栄えた三国街道の三俣宿であり、宿場町として賑わった当時の面影を伝えている。芝原峠の山城である荒戸城跡（あらとじょうせき）も新潟県指定史跡に指定されている。

また、国立公園内には清津峡温泉郷などの古くからある温泉や赤湯温泉などの自然の中にある温泉が点在し、自然と調和した文化景観を形成している。また、清津峡は国指定名勝天然記念物でもあり、その渓谷美は日本三大峡谷の一つとして知られる。

（２）利用の現況

本地域の利用者数は、市町村等への聞き取り調査によると、平成 29 年の苗場山への登山者が 13,990 人、平成 27 年の谷川岳への登山者が 84,020 人であった。両山ともに日本百名山に指定されていることもあり、近年の登山ブームも相まって多くの登山者が全国から訪れている。また、平成 29 年の本地域内のスキー場利用者は 1,600,820 人であった。冬季には良質な雪質を求めて多くの利用者がスキー場を訪れるが、近年は夏季においても野外での音楽イベント等が開催されている。日本三大峡谷に数えられる清津峡には平成 28 年は 68,530 人が訪れていたが、平成 30 年の清津峡渓谷トンネルのリニューアルオープン後、平成 31 年（令和元年）の入坑者数は 317,818 人となっており、多くの人がその渓谷美を堪能している。

（３）社会経済的背景

ア　土地所有別

本地域は、公園区域 33,252ha のうち、国有地 31,206ha（93.8%）、公有地 470ha（1.4%）、私有地 1,576ha（4.7%）であり、国有地が多くの割合を占めるのが特徴である。これらの国有地の大部分は国有林であり、苗場山及び佐武流山周辺は保護林として原生的な自然が保全されている。民有地は主にスキー場や温泉等の観光に利用されている。

イ　人口及び産業

本地域に関係する各町村の世帯数及び人口は、令和２年国勢調査結果（総務省）によると次のとおりである。

県名	市町村名	世帯数（世帯）	人口（人）
新潟県	十日町市	18,012	49,820
	南魚沼市	19,576	54,851
	南魚沼郡湯沢町	3,583	7,767
	中魚沼郡津南町	3,119	8,989
長野県	下水内郡栄村	692	1,660
合計		44,982	123,087

令和２年の調査では、平成 22 年調査と比べて全ての市町村で人口が減少し、合計 18,940 人（13.3%）減少している。これは、過疎化、高齢化、雇用情勢の悪化等により減少しているものと思われる。

本地域の主要な産業は、スキー場や旅館経営等の観光業である。

ウ　権利制限関係

（ア）保安林

（国有林）

種　　類	位　　置	重複面積（ha）	指定年月日
水源かん養	新潟県十日町市地内	1,303	不明
	新潟県南魚沼市地内	2,536	不明
	新潟県南魚沼郡湯沢町地内	※14,807	不明
	長野県下水内郡栄村地内	※6,089	不明
土砂流出防備	新潟県十日町市地内	924	不明
	新潟県南魚沼市地内	18	不明
	新潟県南魚沼郡湯沢町地内	5,636	不明
	新潟県中魚沼郡津南町地内	846	不明
	長野県下水内郡栄村地内	642	不明
なだれ防止	新潟県南魚沼郡湯沢町地内	42	不明
保健	新潟県南魚沼郡湯沢町地内	1,862	不明
	長野県下水内郡栄村地内	605	不明

（同一箇所で２種類以上の保安林に指定されているものについては、種類別にとりまとめた。）

※水源かん養保安林見込み地を含む。

（民有林）

種　　類	位　　置	重複面積（ha）	指定年月日
水源かん養	新潟県南魚沼郡湯沢町地内	143	不明
土砂流出防備	新潟県南魚沼郡湯沢町地内	18	不明
土砂崩壊防備	新潟県十日町市地内	1	不明
なだれ防止	新潟県南魚沼郡湯沢町地内	60	不明

（イ）鳥獣保護区

（県指定）

種　　類	位　　置	重複面積（ha）	当初指定年月日
万太郎山鳥獣保護区	新潟県南魚沼郡湯沢町地内	3,442	昭和 55 年 11 月 1 日
佐武流山鳥獣保護区	新潟県南魚沼郡湯沢町地内	4,424	平成 15 年 11 月 1 日
清津峡鳥獣保護区	新潟県南魚沼郡湯沢町、十日町市地内	1,044	昭和 55 年 11 月 1 日
苗場山鳥獣保護区（新潟県指定）	新潟県南魚沼郡湯沢町、十日町市地内	4,188	昭和 55 年 11 月 1 日

苗場山鳥獣保護区 （長野県指定）	長野県下水内郡栄村地内	594	昭和 55 年 11 月 1 日

（ウ）史跡名勝天然記念物

区　　分	名　　称	位　　置	指定年月日
国指定特別天然記念物	カモシカ	地域を定めず指定	昭和 30 年２月 15 日
国指定名勝・天然記念物	清津峡	新潟県十日町市、南魚沼郡湯沢町	昭和 16 年４月 23 日
国指定天然記念物	イヌワシ	地域を定めず指定	昭和 40 年５月 12 日
	ヤマネ	地域を定めず指定	昭和 50 年６月 26 日
新潟県指定史跡	荒戸城跡	新潟県南魚沼郡湯沢町大字神立	昭和 51 年３月 31 日
	三国街道脇本陣跡池田家	新潟県南魚沼郡湯沢町大字三俣	昭和 29 年２月 10 日
長野県指定天然記念物	ホンドオコジョ	地域を定めず指定（長野県）	昭和 50 年 11 月４日
	ホンシュウモモンガ	地域を定めず指定（長野県）	昭和 50 年 11 月４日
	ベニヒカゲ	地域を定めず指定（長野県）	昭和 50 年２月 24 日
	ミヤマモンキチョウ	地域を定めず指定（長野県）	昭和 50 年２月 24 日
湯沢町指定史跡	寄居城跡	新潟県南魚沼郡湯沢町大字三国	昭和 46 年６月１日
	三国街道二居本陣富沢家	新潟県南魚沼郡湯沢町大字三国	平成 13 年９月 10 日

（エ）その他

（カモシカ保護地域）

保護地域名	都道府県	面積（ha）	指定年
越後・日光・三国山系	福島県、新潟県、栃木県、群馬県、長野県	215,200	昭和 59 年５月

3　公園区域

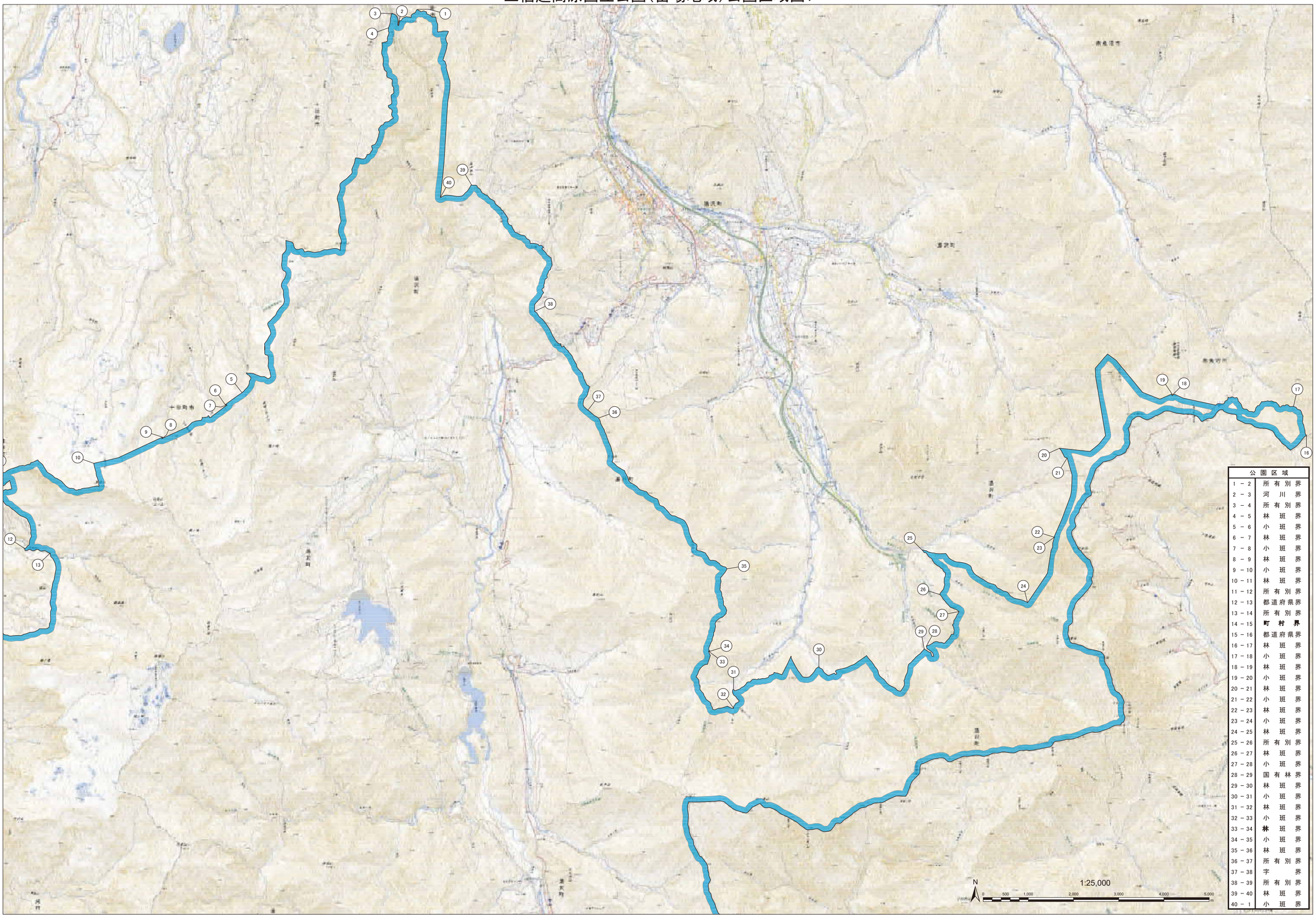
上信越高原国立公園（苗場地域）の区域を次のとおりとする。

（表１：公園区域（陸域）表）

都道府県名	区　　域	面積(ha)
新潟県	十日町市内 国有林中越森林管理署 ６林班、13 林班から 15 林班までの全部並びに、２林班から５林班まで、102 林班及び 103 林班の各一部 十日町市 大字小出の一部	2,163
	南魚沼市 国有林中越森林管理署 144 林班及び 145 林班の各一部	210
	南魚沼郡湯沢町内 国有林中越森林管理署 16 林班から 101 林班まで、124 林班、127 林班、128 林班及び 130 林班の全部並びに 120 林班から 123 林班まで、129 林班、131 林班、132 林班、136 林班及び 137 林班の各一部 南魚沼郡湯沢町 大字三俣、大字三国の各一部	23,309
	中魚沼郡津南町内 国有林中越森林管理署 306 林班及び 307 林班の全部	821
長野県	下水内郡栄村内 国有林北信森林管理署 ８林班から 29 林班までの全部	6,748
合計		33,252

※端数処理のため合計値が一致しない場合がある。

上信越高原国立公園（苗場地域）公園区域図1



公園区域	
1 － 2	所有別界
2 － 3	河川界
3 － 4	所有別界
4 － 5	林班界
5 － 6	小班界
6 － 7	林班界
7 － 8	小班界
8 － 9	林班界
9 － 10	小班界
10 － 11	林班界
11 － 12	所有別界
12 － 13	都道府県界
13 － 14	所有別界
14 － 15	町村界
15 － 16	都道府県界
16 － 17	林班界
17 － 18	小班界
18 － 19	林班界
19 － 20	小班界
20 － 21	林班界
21 － 22	小班界
22 － 23	林班界
23 － 24	小班界
24 － 25	林班界
25 － 26	所有別界
26 － 27	林班界
27 － 28	小班界
28 － 29	国有林界
29 － 30	林班界
30 － 31	小班界
31 － 32	林班界
32 － 33	小班界
33 － 34	林班界
34 － 35	小班界
35 － 36	林班界
36 － 37	所有別界
37 － 38	字界
38 － 39	所有別界
39 － 40	林班界
40 － 1	小班界

上信越高原国立公園(苗場地域)公園区域図2

公園区域	
1 － 2	所有別界
2 － 3	河川界
3 － 4	所有別界
4 － 5	林班界
5 － 6	小班界
6 － 7	林班界
7 － 8	小班界
8 － 9	林班界
9 － 10	小班界
10 － 11	林班界
11 － 12	所有別界
12 － 13	都道府県界
13 － 14	所有別界
14 － 15	**町村界**
15 － 16	都道府県界
16 － 17	林班界
17 － 18	小班界
18 － 19	林班界
19 － 20	小班界
20 － 21	林班界
21 － 22	小班界
22 － 23	林班界
23 － 24	小班界
24 － 25	林班界
25 － 26	所有別界
26 － 27	林班界
27 － 28	小班界
28 － 29	国有林界
29 － 30	林班界
30 － 31	小班界
31 － 32	林班界
32 － 33	小班界
33 － 34	**林班界**
34 － 35	小班界
35 － 36	林班界
36 － 37	所有別界
37 － 38	字界
38 － 39	所有別界
39 － 40	林班界
40 － 1	小班界